

大型農機の展示拠点

担い手不足 道内に需要

輸入農機を販売する日本ニューホランド(札幌市)は2015年内に10数億円を投じ、大型農機を展示する拠点を苫小牧市内に新設する。今春開設した農場とともに、小型機が多い国内で大型機を紹介する拠点として利用する。農業人口が減るなか、農家1戸あたりの経営規模は拡大している。農機も大型化が進むとみて販売体制を強化する。

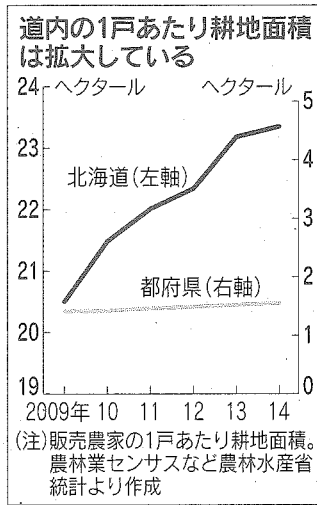


日本ニューホランドが販売する大型農機

日本ニューホランド、苫小牧に

日本ニューホランドは、

欧州に本拠を置く農機の世界大手、CNHインダストリアルが出資している。欧米で製造している「ニューホランド」ブランドなどの大型農機を中心に、日本国内で販売し



大型機を紹介し、需要を取り込む狙い。倉庫も増設し、苫小牧の拠点内に大型農機を常時60台程度置くようにする。今春にはグループ企業が運営する28畝の農場も新設した。牧草やテンサイ、飼料用トウモロコシなどを生産している。顧客が実際の農機の運転を見学できるほか、社員が商品知識を高めるための

場所として位置づける。来年以降はコムギやダイズなどの生産も始め、多様な農機の性能を顧客が確認できる場に使つ。大規模農業が定着した欧米では、200馬力を超える大型トラクターが多く使われている。道内向けの平均は130馬力ほどだが、ここ5年ほどで売れ筋は3割程度大型化しているという。担い手不足から、農家の規模の拡大が進んでおり、さらに大型の農機需要が拡

女性管理職5.4%

道内企業、民間調べ

全国平均を下回る

帝国データバンク札幌支店の女性登用に対する道内企業の意識調査によると、管理職のうち女性

割合の割合 全国平均 5.4% 調査が 製造、 女性管 性占 社長 7割下 平均20 業員の 女性

大すると判断した。12年には三菱商事が出資する輸入農機の販売会社、エム・エス・ケー農業機械が東京都から恵庭市に本社を移転した。スウェーデンのロボット控乳機を販売するテラバル(東京・新宿)も道内で販売数を倍増させるなど、北海道での営業活動が活発になっている。

真昆布の加工技術開発

社(こま)で、だし原料の量産を可能にする。



0選 内図

谷は地元目 札幌のガイド